

意見募集結果

8月8日にとりまとめた、「東北地方太平洋沖地震による津波被害を踏まえた津波警報の改善の方向性について 中間とりまとめ」に対する意見聴取を以下のとおり行った。

1. インターネットによる意見募集 51名（募集期間：8月8日～9月2日）
2. 都道府県への意見聴取 39都道府県、12振興局（北海道）、233市町村
3. 報道機関等への意見聴取 159機関
4. 関係省庁 中央：11機関、地方：19機関

頂いたご意見の概要及び気象庁の見解は次ページのとおりである。

頂いたご意見及び気象庁の見解

中間とりまとめの項目	主なご意見	気象庁の見解
3.1 基本方針	<ul style="list-style-type: none"> 概ね妥当と考える。 発表の迅速性は確保すべき。 安全サイドに立ちすぎてオオカミ少年とならないように。 	<p>今回の津波警報の改善は、巨大地震や津波地震についても、過小評価を回避し、安全サイドに立った津波警報を迅速に発表するというものです。頻繁に発表される M8 程度以下の通常の地震については、これまで通りの考え方で発表します。</p> <p>津波警報の第1報の段階では不確定性の中で安全サイドに立った津波推定を行うため、予測が大きくなる傾向はありますが、引き続き精度向上に努めてまいります。</p>
3.2(1)津波警報の分類の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 現行でよい。 津波警報(大津波)を大津波警報とすべき。 津波警報(大津波)の上に「巨大津波警報」を設けては。 	<p>現行の分類において、適切な避難行動を促進するような警報の呼びかけをどのように行うのがよいか、検討してまいります。大津波警報という名称については、その使用も可能とするよう、検討してまいります。</p>
3.2(2)①津波警報第1報で使用するマグニチュード設定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 第1報で規模の過大評価の可能性がありつつ発表することについてはやむを得ない。 第1報については、早く正確な情報の提供に努めるべき。 	<p>第1報段階では不確定性の中で安全サイドに立った津波推定を行うため、予測が大きくなる傾向はありますが、引き続き精度向上に努めてまいります。</p>
3.2(2)②初期段階での地震規模の適切な推定、警報のより迅速な更新	<ul style="list-style-type: none"> 速やかな更新を望む。 	<p>適切な地震の規模推定や、沖合での観測が得られ次第、できるだけ速やかに警報を更新します。</p>
3.2(3)①a 津波の高さ予想の区分及び数値の表現方法	<ul style="list-style-type: none"> 5段階程度は適切／少ない／多い(それぞれのご意見あり)。 大津波との境界である「3m」は、現在それを境に防災対応をとっていることから、継続してほしい。 遡上高の情報を望む。 	<p>高さに応じた防災対応や予測の誤差の幅を踏まえると、5段階程度が妥当と考えております。</p> <p>頂いたご意見を参考に、適切な区分や高さの数値表現について検討してまいります。併せて、遡上高についても情報で言及するべきかどうかについても検討を進めます。</p>
3.2(3)①b 津波警報における高さ予想の伝え方	<ul style="list-style-type: none"> 定性的な表現となるのはやむを得ない。 第1報の数字は発表して欲しい。 過去の被害を引用することについては、災害として発生頻度が少なくイメージしにくいのではないかと。 	<p>巨大地震等については第1報では定性的な表現とするとともに、適切な避難行動を促進するような表現について検討してまいります。</p>
3.2(3)② 津波到達予想時刻の発表	<ul style="list-style-type: none"> 到達予想時刻はこれまでどおり発表してほしい。 第1波の到達時刻は同じ予報区内で違いがあり、第1波が到達してから最大波の到達までも時間差がある。この点に留意が必要ではないかと。 	<p>頂いたご指摘は、最終とりまとめに反映いたしました。</p>
3.2(3)③ 津波の観測データの発表	<ul style="list-style-type: none"> 第1波の高さの情報は必要である。 第1波が到達したことだけ伝えればよい。 	<p>第1波の到達の伝え方について、来襲した津波は小さいものとの誤解を与えない発表の仕方を、引き続き検討してまいります。</p>
3.2(3)④ 情報文の改善	<ul style="list-style-type: none"> 一般の人が分かりやすい内容を望む。 簡潔なものを望む。 避難を促すような表現を望む。 	<p>頂いたご意見を参考に、適切な避難行動を促進するようなわかりやすい情報文を検討してまいります。</p>
4.(1)津波警報等の分類や予想される津波の高さの設定と防災対応のリンク	<ul style="list-style-type: none"> 警報のとき取るべき行動(鉄筋3F以上に避難、など)が分かるようにしてほしい。 警報の数値の持つ意味がもっと分かるようにしてほしい(震度階級のように)。 各自治体と協議会等で連携をはかるべき。 	<p>津波警報等と防災対応とのリンクについて、関係機関と連携して検討してまいります。特に、地元気象台を通して自治体等と連携を図りたいと考えております。</p>

4. (2) 広報周知活動	広報周知活動における気象庁の役割に期待する。	一層の広報周知活動に努めてまいります。
4. (3) 津波警報の伝達	携帯電話による警報伝達を促進すべきである。	関係機関と連携しつつ、津波警報が住民に確実に行き渡るための方策を積極的に推進してまいります。
その他(上記項目以外)	予報区をさらに細分してほしい。 津波の今後の見通しや第2波、第3波の情報をいただきたい。	予報区の細分については、予測精度等から直ちには困難と考えております。 津波の今後の見通しや第2波、第3波については、現在の技術では予測が非常に困難です。技術開発や、予測困難な中での情報提供のあり方について、検討を進めてまいります。